

(科目コード : 1006620007AA)

【改訂】第3版(2019-02-27)

【科目】近代西洋社会論

【科目分類】一般科目 【選択・必修の別】選択

【学期・単位数】後期・2単位

【対象学科・専攻】生産システム,環境 2年

【担当教員】宮川 剛

【授業目標】

近世・近代ヨーロッパの社会や歴史に様々な角度から光をあてて、世界史におけるヨーロッパの役割、他の地域・文明に与えた影響などを理解することができる。

現代世界形成に大きな役割を果たしたヨーロッパの歴史的背景について理解を深めることで、グローバル化の時代にふさわしい教養・認識を身につけることができる。

現代の日本とは異なる過去の社会や人々の生活を学ぶことにより、物事について多様な角度からアプローチするための訓練を積むことができる。

歴史における人類の偉業ならびに愚行について考察することにより、これからの世界を形作るうえで必要な教訓を得ることができる。

【教育方針・授業概要】

・本科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。

・近世・近代ヨーロッパの政治、文化、宗教など、毎回テーマを設定し、講義や資料(英語文献含む)の講読を通じて、基本的な知識を提供する。

・講義の内容に関係する資料や参考図書を読み込むことで、現代世界の諸問題の歴史的背景を理解する。

・レポートの作成などを通じて、自らの考えを論理的に表現する訓練をおこなう。

【教科書・教材・参考書等】

とくに教科書などは利用しない。授業中にプリントなどを配布する。参考図書なども授業中に指示する。

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

講義形式で行う。講義の内容や文献・資料の講読に基づいた小レポートの作成などを授業中に行う。

【メッセージ】

中央公論新社『世界の歴史』シリーズや山川出版社『世界史リブレット』シリーズ(いずれも図書館に所蔵)のヨーロッパを扱った巻を読んでおくことが望ましい。

【成績評価方法】

[後期]期末試験:80%,レポート:20%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	近代ヨーロッパ社会史の主要な問題について理解する。	50 %	期末試験40%、レポート10%の割合で評価する。
2	社会史のアプローチを学ぶことで、物事に対して多様な角度からアプローチする訓練を積む。	50 %	期末試験40%、レポート10%の割合で評価する。

【本校の学習・教育目標】

(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、多種多様な人間文化と社会生活を理解するとともに、ものごとに対して多角的観点から考察できる力を涵養する

【授業計画】(近代西洋社会論)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
1	イントロダクション	西洋近代史概説		
2	歴史学的手法	史料をいかに読むのか。歴史学の対象は何か。		
3~5	キリスト教世界	中世から近代にかけて、ヨーロッパ・キリスト教世界はどのような展開を示したか。教会は社会にどのように影響を与えたか。		
6~7	ヨーロッパの都市と市民	ヨーロッパの都市の特質は何か。市民意識成立の背景は何か。		
8~11	歴史における「衰退」	ローマ帝国、大英帝国など、過去の大国はいかに衰退していったか。その社会はどのような変容を遂げたのか。日本にとってどのような教訓を提供してくれるのか。		
12~14	近代ヨーロッパにおける政治と宗教	フランス革命以後の時代において、政治と宗教はいかなる関係にあったか。フランスにおける「ライシテ(脱宗教性)」の原則の確立などを取り上げ、21世紀の多文化社会における政教関係についても考察したい。		
15	総括	授業の総括		